新医学系指針対応「情報公開文書」改訂フォーム

リハビリテーション参加者の内的動機づけと自己決定感・主体感・自己効力感との関連およびADL自立度への影響に関する研究

１．研究の対象

平成29年5月～31年3月31日まで付属病院にてリハビリテーションに参加している入院患者・外来通院患者で次の１）～４）を満たす成人の方

１）脳血管障害患者

２）認知症状がない：主治医によって客観的にコミュニケーションがとれ日常生活に支障が無いと判断された者

３）何らかのリハビリテーションを受けている者

４）発症時から調査時までにカルテ情報によりADLが少しでも改善していると医療従事者により判断された者

２．研究目的・方法

１．研究の目的

１）リハビリテーションへの参加意欲と、意欲に関連すると考えられる以下の３つの主観についてアンケート調査を行う。

①自己決定感（ある行動を実施することを決めたのは自分だという感覚）

②主体感（ある行為を自分自身で行っているという感覚）

③自己効力感（ある現象を自身でコントロールできるという感覚）

２）リハビリテーション参加意欲と３つの主観との関係を分析する。

３）参加意欲・３つの主観と日常生活動作の改善状況との関連を分析する。

以上を通して、患者様のリハビリテーションへの参加意欲に関わる影響因子について検討する。

２．研究期間・方法

研究期間は，平成29年4月から31年3月

聴取したアンケートについて分析する。また、年代、性別、疾患名、麻痺の程度等をカルテ情報より確認する。

３．研究に用いる試料・情報の種類

情報：年代、性別、疾患名、麻痺の程度　等

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者：
茨城県立医療大学　保健医療学部　看護学科
川野道宏　電話：029-840-2151（直通）　内線 6421　e-mail: kawano@ipu.ac.jp